



# 図書館だより

No. 13

1986. 12

上田女子短期大学附属図書館

## 「図書館の色は？」

大島 富朗

(一)

「図書館だより」に一文を、との致命、順序から言っても当然書くべきであると。単純明快、疑問反駁拒否拒絶の余地なく、剩え、隣りから「気軽に何でも書けばいいのよ」。平然と“他人の不幸不運は我が身の幸福幸運”ニヤリと微笑み宣う。気のきいた斬り返しならぬまま、生来の気弱き性、場の雰囲気<sup>注1</sup>に吞まれ、ハッと気付けば専用原稿用紙なるもの七枚渡され期日限られる始末。禍々しき星の下に生まれた身の不運を呪い“顔で笑って心で泣いて”を演ずる名優もどき。期限期日は刻一刻と、情け容赦なく確実に<sup>注2</sup>迫り来るに反比例、良きアイデアのあらばこそ、頭の中は空々白々、マス目埋める手作業を回避、机を見ざる触れざる近寄らず

一途に嵐去りし後の楽しみ、さながら取らぬ狸の皮算用、「心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつく、さざれば、あやしくこそものぐるほしけれ」と、彼の庵主を一瞬気取りたるも、所詮「月とスッポン提灯に釣鐘」<sup>注3</sup>「一休サンと桔梗屋サン」<sup>注4</sup>。それでも尚、「百姓と菜種」<sup>注5</sup>に遥か及ばず、「秋風ぞ吹く」頭を叩くも「ザンギリ頭」<sup>注6</sup>程の音もなし、只々持ち主を嘲笑うかの如し。「寝ては夢、起きては現実、幻」のテーマ、思案投首の、その果てにハッタと浮ぶ「図書館の色は？」という実に哲学的、にして深遠な題。題が決まれば全て良し、先日来の暗雲たちまち晴れて、マル。「今鳴いた鳥がもう笑った」ような変身の素早さ、たとえて申せば仮面ライダーかカムイの秘術、鼻唄交りのル<sup>注7</sup><sup>注8</sup><sup>注9</sup><sup>注10</sup>

### 目 次

図書館の色は …………… 大島 富朗… 1	共存 …………… 国文2・青木富志子… 13
創作舞踊と私 …………… 飯田 正江… 6	過去における誤ち…………… 幼教1・倉沢由美子… 14
霜宵雑感 …………… 上原 貴夫… 8	電話 …………… 国文1・河野かおり… 15
蔵書について …………… 安藤 裕… 10	【図書館ガイド】図書館員になるには…………… 16
実習を終えて …………… 幼教2・加藤美保子… 12	図書館ニュース …………… 18

ンルン気分、鉛筆なめなめここまで書き来りしは良いが、当初から構想とてなく「ケ・セラ・セラ」明日は明日の風が吹くを地で行く無責任、忽ち馬脚露わし鍍金剥げ四苦八苦。想いを遠く、江戸の戯作者、昭和の近松、昭和の戯れ絵師、に駆せる大胆不敵、身の程知らずの「無能無芸にして只此一筋に繋る」べき一筋も持ち合せぬ為体。馬鹿につける葉無しとは古人の名言、普遍なる真理。いかなる隘路に踏み迷いしと思う一刹那「初心」の一言天啓の如く脳裏に閃く。

## (一)

そこで再び件の題を倩々考えみるに、アッと叫んで叩く膝頭、力余りて、その余り、あまり痛さに立きて三步あゆまず、ではなくウッと呻く。痛さに忽ち正気は甦り、思考回路の修復なり、黙って座ればピタリと当る上田袋町裏の占者の卦の如く、はた又「掌中の珠めぐらす」如く、自由自在、赤子の手捻るが如く簡単に、産みの苦しみ早忘却の彼方へ飛び去り行く。

一体何故「図書館の色は？」に拘泥るか、何故自問して「色は？」なのかが、乱れ纏れ繕れし糸解く切っ掛けなるを知る。さて、その色は、赤か黄色か水色か紫緑青朱色それとも七色虹の色。一寸気取って象牙色。いいや私は神秘を湛えた霧の摩周湖碧色、何と深味のある色でしょう。燦然と輝く金色こそが智慧のシンボル。深い銀白色こそ最高ノ。エメラルドグリーン。近頃流行のパステルカラー。桃色。ねずみ。ついでに吐息、おっと筆は禍いのもと、元に戻って色々尽し、揚句の果は百花繚乱玉石混淆豪華絢爛総天然色近日上映乞御期待、百万長者の嘘八百、八百八町は大江戸で難波の都は八百八橋、百日説法の屁一つ、仏の御顔に白毫が強い白檀か、百目蠟燭百面相百鬼夜行す百物語、何だ神田で収集がつかず、百家斉放大同小異議論百出同工異曲談論風発似非紳士、一世風靡のセピア色ブルーライトの横浜はやっと来りました

本牧あたりで黄昏て、伊勢佐木町のブルースはペギー葉山の青春時代、ではない学生時代、秋の日イーの、図書館ソ一の、ノートとインクのおいー

紆余曲折右顧左眄右往左往試行錯誤の艱難辛苦难行苦行幾星霜、花も嵐も踏み越えて、はるばる来たぜ函館ならぬ発想の原点。

## (二)

我は答えん曰く「白」と。唯一無二の白、遮二無二の白、吉永小百合的白、断然白、絶対白、花嫁衣装の白。(閑話休題。欲と本音をチラリと言え、薦なども飾りとしてあれば、花札的になお「よろし」なのであるが、強欲は大欲に通ずるが故に、歌詞の通り、秋は白、白い秋、白秋)。

「学生時代」を散文風に、とらば一ゆすれば、図書館は、秋の日の黄昏時がふさわしく、枯れ葉などが窓にゆれ、落葉の舞う舗道……そうだ、決して砂利敷きであってはならない。まして土塵りなど論外、興ざめの極、たとえて言えば中央線、国立駅下車南口、大学通り風、はた又懐しの名画「第三の男」のラストシーンのような秋暮色の中、蔦色の図書館へ続く灯ともし頃の、ガロやビリーバンバンの歌に歌われた学生生活、茜に染まるステンドグラス、次第にその数増すネオンサインの輝き、動の終焉。

とまあ愚にもつかない蚯蚓の戯言唐人の寝言の類、口から出まかせ鉛筆のなすままに書き続け来たれども、更に綴るも恥の上塗り身の程知らず。枚数制限筆耕料無期限厳守、脳裏風吹指先疲弊思考停止両眼充血浅学非才、注釈もままならず、その内容に乏しき、今日的軽薄短少的戯言嘖り散らし、羅子紫媛西翁桃青巢林子剪枝崎人著作堂主人等に、似ても似つかず及びもつかねど、狂言綺語ならぬ、駄文拙文戯文を綴りし己が身の行く末、いづれ六道の辻にて「野晒し」となるは必定、しばしの妄言多謝深謝。

- 注1 人間心理の微妙な綾を鋭く抉り出した表現の一つといわれる。他にも「笑ってごまかせ自分の失敗、しつこくいびれ他人の失敗」「小さな親切大きなお世話」というようなものあり、社会心理学的、人間行動学的見地からの考察が期待される。孤独な群集たる現代社会の人間関係を解明するキーワードの一つでもある。ただし、その使用には十二分の配慮が必要とされ、最悪の場合従来の人間関係を根本的に否定する。マグニチュード8以上のエネルギーを内含する。未成年者の使用を禁止する旨の法案が然るべく検討されているとの風聞もある。
- 2 あるものに似せてつくること。また、似ているもの。有名な用例に、その味が雁の肉に似ているが雁ではない故の「雁もどき」がある。普通「——もどき」と使う。
- 3 吉田兼好「徒然草」の冒頭。傍点部原文なし。
- 4 吉田兼好、占部兼好ともいう。
- 5 有名な連続TVアニメ。テレビ朝日より放映。一休禅師の少年時代を描く。
- 6 共に絞れば絞るほど絞れるものとして古来より人口に膾炙している。
- 7 和歌的常套表現。「——白河の関」というように用いる。
- 8 散切頭と書く。「——を叩いて見れば文明開化の音がする」という、明治当初の世態風俗を戯画化した表現が有名である。
- 9 石森章太郎原作・画による人気漫画。後に連続TV化。毎日放送より放映(昭46・4/3)。変身ものブームの火つけ役。ライダー1号、2号、V3、ライダーマン、ライダーX、アマゾンライダー等々、手を替え品を替えて登場。
- 10 白土三平の代表的劇画「カムイ伝」「カムイ外伝」の主人公。天才的忍者、変移抜刀霞斬り・飯綱落としなどを得意術とする。公儀隠密の一員なるも或る事情から抜忍となり命をつけねられ逃亡流浪を続ける。「カムイ伝」は昭32年12月から月刊誌「ガロ」に連載開始、その後満7年をかけ第一部終了。「外伝」の方は術中心。現在は「ビッグコミック」に「カムイ外伝」第二部を連載中。同じ作者の「忍者武芸帳」と共に全共闘世代に広く支持者を持つ。
- 11 昭57年度の流行語。神保史郎原作漫画「花の子ルンルン」を産みの母とす。翌58年林真理子「ルンルンを買っておうちに帰ろう」刊。花の女子大生を中心に広く流行語となる。
- 12 映画「知りすぎていた男」監A ヒッチコック(主) J スチュアート・D デイ、56年、米、の主題歌。D デイが映画の中で歌いサスペンスを盛り上げた。日本ではベギー葉山が歌って流行した。
- 13 井上ひさし氏の異名の一つ。
- 14 イラストレーター、山藤章二氏。「週刊朝日」ブラックアングルで活躍中。そのマルチタレント振りは巷間つとに名高い。
- 15 松尾芭蕉「笈の小文」の一節。
- 16 石川啄木「たはむれに母を背負ひて / そのあまり軽きに泣きて / 三步あゆまず」(『一握の砂』)
- 17 昭41年。詞水島哲(曲)平尾昌晃(歌)布施明。
- 18 昭59年。詞康珍化(曲)佐藤隆(歌)高橋真梨子。
- 19 フジTVの連続時代劇「銭形平次」故大川橋蔵主演の主題歌。詞関沢新一(曲)安藤実親(歌)舟木一夫。歌詞の一部に「なんだかんだ(神田)の、明神下」とあり、こうした掛け詞的言語遊戯は「ビックリした(下谷)やの三味線堀」「おっと合点承知之介」「あたりまえだ(前田)のクラッカー」などと共通するものである。尚、同番組は昭41年から18年間放映された。
- 20 歌によるパフォーマンス集団、一世風靡セピア「前略、道の上より」昭和59年。詞SEPIA(曲)GOTO
- 21 「ブルーライト横浜」昭43年。詞橋本淳(曲)筒美京平(歌)いしだあゆみ。
- 22 昭46年。「よこはま・たそがれ」詞山口洋子(曲)平尾昌晃(歌)五木ひろし。
- 23 「伊勢佐木町ブルース」昭43年。詞川内康範(曲)鈴木庸一(歌)青江三奈。



- 注24 昭53年。◎阿久悠◎曲◎森田公一◎歌◎森田公一とトップギャラン。中年ポップスとして大流行。
- 25 ◎◎平岡精二
- 26 「旅の夜風」◎◎西条八十◎曲◎万城目正◎歌◎霧島昇とミス・コロンビア
- 27 「函館の女」昭40年。◎◎星野哲郎◎曲◎島津伸男◎歌◎北島三郎。北島三郎の「女シリーズ」の一つ。彼の代表的演歌。
- 28 昭31年12月ラジオ東京(現TBS)の連続ラジオドラマ「赤銅鈴之助」の千葉周作の娘さゆり役で芸能界入り。以来今日に至るまで熱狂的なファン(サユリストと称す)の支持を受ける。いわゆるひとつのチョーサンこと長嶋茂雄にとり読売巨人軍が永遠である以上に、サユリストにとり吉永小百合様は美神ヴィーナスを超え、彼の「観音」山口百恵を超え、存在そのものにして全宇宙、又は造物主そのものである。ちなみに、吉永小百合の誕生日は昭20年3月13日、筆者と同じ酉年の生れである。同じ時代を生き続けられるのはサユリストにとり無上の至福というべきであり、小百合様は全てである。
- 29 必ずしも「甲子園」的な蔭であることはない。
- 30 花札の図案は日本の美学の粋、象徴。梅・松は「あかよろし」、桜は「みよしの」とある。ゲームの一種「こいこい」は興味尽きぬ奥深さあり。
- 31 正しくは、無欲は大欲に通ず、である。
- 32 中国股代の五方説にその淵源あり。方位と色とを関連的に説明する。
- 33 大正期の最も知られた九州柳川出身の詩人・歌人の北原隆吉(1885~1942)の号として知られる。彼の処女詩集『邪宗門』は当時の詩壇に大きな衝撃を与えた。
- 34 Travelの同語源の、Travail(仏語・労働、仕事の意)をひらがなで表記したものにして、じぶんのための仕事情報誌をうたう週刊誌。リクルート発行。昭55年創刊。本来は誌名であるが、名詞に「する」や「る」をつけて何でも動詞化する方法を取り入れ、
- 述語化し「—する」「—ばる」「—ばると」など日常会話の中にさりげなく使うのが当世風とされる。深い意味なくAからBへ移る場合に使われたりもする。「一度定職につくと簡単に—できないからネ」などと使う。
- 35 赤坂の迎賓館付近、神宮外苑の絵画館前等の街路樹を連想して欲しい。表参道の並木でも可。
- 36 東京都下の一都市。文教地区として有名。山口瞳氏により広く世間に紹介される。俳優の山谷初男氏も20年近く住む。文化人多し。国分寺と立川の間にある為、双方の一字を取り国立と命名。クニタチにしてコクリツにあらず。そそっかしい人はよく読み違える。一橋大学、国立音大、東女体大等の所在地でもある。駅南口の正面に展開する、通称大学通りの並木は四季を通じて美観を呈し、市のシンボリック的存在。
- 37 昭27年9月封切。英。◎◎Kリード◎◎主◎Jコットン、Aヴァリ、Oウェルズ、Tハワード。Aカラスのチタの主題曲は素晴らしい。原作Gグリーン。第2次大戦後、米英仏ソ4ヶ国共同管理下のウィーンを舞台にしたサスペンスドラマ。Oウェルズの個性が輝いた。27年度キネ旬外国映画ベストテンの第2位。因みに第1位は「チャプリンの殺人狂時代」。同3位は「天上棧敷の人々」。
- 38 芭蕉の「秋風や桐に動て蔦の霜」(『三冊子』)の「蔦」と等質である。筆者自身「白」と述べつつ「蔦」とする矛盾を知っているがあえて訂正せず。
- 39 昭40年代後半に活躍したフォークグループの一つ。昭47年「学生街の喫茶店」(◎◎山上路夫◎◎曲◎すぎやまこういち)が代表曲。



注40 昭40年代前半に活躍した兄弟デュオ。

昭44年の「白いブランコ」(詞 小平なほみ  
曲 菅原進)が代表曲。甘く美しく親しみやすいメロディーが持ち味。

- 41 昭40年代はカレッジフォーク、ポップスが全盛をほこった。はしだのりひことシューベルツの「風」(詞 北山修 曲 端田宣彦、トワ・エ・モア「或る日突然」(詞 山上路夫 曲 村井邦彦、他にも、ザ・フォーク・クルセダーズ、岡林信康、高田渡、五つの赤い風船、赤い鳥、吉田拓郎、高石とも也、長谷川きよし、オフコース、ソルティー・シュガー、ジローズ、はしだのりひことクライマックス等々が同世代の支持を受けた。又、フォークゲリラ、フォーク集会などの社会現象もこの時期に流行した。

42 羅貫中、「水滸伝」の作者。

43 紫式部、「源氏物語」他。

44 井原西鶴、「好色一代男」他。

45 松尾芭蕉、「おくの細道」他。

46 近松門左衛門、「曾根崎心中」「平家女護鸞」他。

47 上田秋成、「雨月物語」「春雨物語」他。

48 滝沢馬琴、「南総里見八犬伝」他。

49 衆生が行かねばならない、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上の六種の世界。その岐路に地藏菩薩がおり六道の衆生を教え救う。

50 埋葬されず、野に放置されたままの鵜飼。芭蕉の「野ざらしを心に風のしむ身哉」(『甲子吟行』)、落語「野ざらし」などで馴染み深い。

(追記)本来一行ですむことを牛の涎の如くだらだと、かくも無内容な文に綴りつつ、注付け出来るのもこれ皆図書館のお陰である。合掌。

(助教授)

## 資料紹介

### 全国短期大学紀要論文索引 '80~'84

図書館科学会編 日本図書センター刊

全6巻 (1) 人文科学編

(2) 社会科学編

(3) 自然科学編

(4) 語学・文学編

(5) 家政学編

(6) 執筆者索引

図書館のレファレンス・サービスの上で、該当する参考書が刊行されていない時ほど、無駄を感じることはない。特に学術論文の収集漏れは、自分の書いた論文の価値をも問われることにつながる。

短大から刊行される紀要類の研究論文は、国立国会図書館の『雑誌記事索引』に何故か収録されないため検索が不十分な状態であった。

先に『全国短大紀要論文索引』1950-1979を編集した図書館科学会は、1980年以後の5年分を再びまとめ、この度刊行した。

以下毎年逐次刊行の予定である。



# 創作舞踊と私

飯田正江

創作舞踊との初めての出会いは、染谷高校時代であった。私は、生来おてんば娘で、動き廻ったり、体育が大好きであったが、外見からすると弱々しそうに見えるらしく、中学生時代は、担任に「運動部はやめておきなさい。」と言われ美術部に属していた。高校へ入学と同時に、ダンス部の先輩達がみごとに踊っているのを見てあこがれ、早速体操ダンス部へ入部した。器械体操をやっていたが、高校2年生の時、斉藤朋子先生が赴任され、創作舞踊を知った。青空に浮ぶ白い雲の群に感動し、創作した「雲」という作品を、今でも良く覚えている。文化祭には、「ピラミッド、ひまわり、かきつばた」を部で発表し、衣裳を着け化粧をし、初舞台をふんだ。

創作舞踊にあこがれ、東京の大学へ出て行っていたが、その機会がなく、結局、ダンス部に籍を置き、今でいう新体操をやった。振付けされた作品を覚え、美しく踊ることが目的であり、心の中でいつも、ものたりなきを感じながら過ごしていた。

昭和42年、卒業と同時に、本学の前進、本州女子短期大学の体育の教師となった。実際に体育の授業は、保体・専体・音楽リズムを私ひとりに任された。その中の音楽リズム(動きのリズム)をどの様に進めるかが課題であった。

そして、信州大学教育学部の聴講生となり、樋口貴美子先生の「舞踊」と、他教科を受講し1年間、毎週金曜日は、学生となり長野へ通った。

その年の暮れ、恩師に進められて、日本教育舞踊研究所主催(邦正美所長)の「21期、舞踊大学講座」前期に参加した。12日間の合宿で、舞踊身体育法と運動原理、舞踊概説、次に春休

みに中期を受講し、空間形成法、リズム原論と実習、舞踊史を学んだ。後期は夏休みに行われ動きのスケッチ、舞踊形式と法則、即興、教育舞踊原論、舞踊美学、舞踊プロダクションを学び、最後はソロの作品発表をし、全部で34日間の合宿を終了し、日本教育舞踊研究所の研究员となった。

恩師の邦正美は、東京帝大文学部在学中から舞踊界で活躍し、その後、ドイツ国立舞踊大学を経て、創作舞踊の父といわれる、ルドルフ・フォン・ラバンとメリーウィグマンに師事し、フリードリヒ・ヴィルヘルム大学で学者として研究をされた。そして、ドイツを中心に、イギリス・ブラジル等で活躍し、1961年アメリカへ渡り、現在はフラトン大学名誉教授・クニ・ダンス・ファウンデーションを主催している。

毎年、研究所主催の「教育舞踊ゼミナール」が、7月末から1週間野沢温泉で行われ、全国から150名の研究员が集り、邦先生の御指導を受ける。その他に、3日間の「創作ワークショップ」があり、15名で特訓を受ける機会もある。

通常は研究室単位で公演や研究を行い、私は上田研究室(他4人)に所属している。

邦先生から、抽象舞踊、創作舞踊カリキュラムの作成・表現技巧・前衛カリキュラム、シンセサイザーの実技等々、次々に課題を出され、必死で追いかけてきた。そして、「学校の舞踊の先生は舞踊の専門家であれ」という御指導を受け、私も、教師と舞踊家の道を追いつけている。

過去7回、研究室で公演したが、(上田で4回、松本、木曾、諏訪)、私の作品は、過去、鳥、つた、亀裂、きつね、飛翔、雪女、穴、四角、食虫植物、炎であった。皆、その時の感動



や、思いがあり、作品により、自分をみつめ、新たな自分をみつけようとしてきた。

さて、学内では、昭和43年、教師2年目の年に、第1回校内創作舞踊発表会を行った。そして秋に、文化祭に上田市民館で行われた文化フェスティバルに、学生5人と私で「食欲」という作品を発表した。これが創作舞踊部の第一歩であった。それから創作舞踊部は、公演の度に作品及び運営面で中心となり活躍してくれている。今年から、月一度、卒業生が集り、研究会を行っているが、将来は、皆で公演ができるのを楽しみにしている。

昭和48年から「音楽と創作舞踊の会」を8回行い、昭和56年、音楽と分離し、創作舞踊のみで「クリエイティブダンス」を公演し、今年で6回終了した。この公演の初期は、「前衛だわからない」等言われたが、今や、誰れもがパフォーマンス、新しい事、めずらしい事が良しとされる世の中になった。テープレコーダーやシンセサイザーの進歩と普及により、学生にも、操作が簡単にでき、複雑な音が創れるようになった。学生の熱意も年々高まり、うれしい悲鳴を上げている。

昭和54年、二人の子供が通っている豊殿保育園から「舞踊を勉強したい」と依頼され、子供

がお世話になったお礼にと軽い気持ちで引き受け通い始め、それが今日までずっと続いてきた。主に、子供への導入を私が指導し、それから、保母が指導法を学び実践を重ね、子供の動きをまとめ、構成し、運動会に発表してきた。そして、それが周囲の園に広がり、7年目の今日までに13園へ直接指導に通ったり、講演会等を通じて、定着しつつある。幼児の創造性のすばらしさに、私もつい夢中になり楽しんでやってきた。新めてこの実践を通して、幼児の舞踊の可能性を再認識し、これらを整理し、幼児の創作舞踊カリキュラムを作成することが、当面の私の課題であると考えている。

私が教師となり、創作舞踊を学んでから、ちょうど20年が経った。毎年7月のクリエイティブダンスの公演までは学生指導に追われ、終るとすぐ夏期ゼミがあり、それが終ると今度は、幼稚園、保育園の運動会の指導が始まる。それが終ると、やっと一段落であり、その後、研究や公演があると、あっというまに1年間が終りいつの間にか20年が過ぎた。こうして、舞踊を続けられたのは、周囲の人々の応援があったからだと思う。そして舞踊を通して、人間関係も豊かになった。

私が見たり、聞いたり、感じたりする場合、すべて、舞踊を創る目と心を通してやっていることにはっと気づくことがある。

舞踊は、人間の身体の運動を媒体として、内的表現をするもので、創作と演技することの両者が必要である。研究所では、私の母と同年代の方も、けいこ着をつけて踊り始めると、全く年令の差を感じさせない。又、ディスカッションの場においても理路整然と話される。私も、舞踊を創る心と、それを表現できる身体を磨き続けたいと思う。

(助教授)

~~~~~ 霜 宵 雑 感 ~~~~~

上 原 貴 夫

「図書館だより」に一文をとのこと、また、どのようなことでもよいからとのことなので筆をとった。このような依頼ははじめてのことなのでいささか驚いたが標題のようなタイトルとなった。

さて、現代は「情報の時代」であるといわれる。いつ頃、このように言われるようになってきたのか……書物としてはガルブレイブスが著したもののなかに「情報洪水の時代」という句があったように思う。このような言葉を明確に用いるようになったのはこの頃かと思う。しかし、実際には情報時代ということは、近頃、急に始まったことではないと思う。情報の大切さ、重要さということは、古くから認識されていた。

自軍の勝利を一刻も早く知らせるために故国の首都へと走りに走り、後にマラソンの起源にもなったといわれる古代ギリシアの故事、ナポレオンの敗北を一早く知ってロンドンにおける株の投資を操作した話などはあまりにも有名である。また、信玄の「狼火」台の話、秀吉の「人繩」の話、幕末における高田屋と喜多家の話などの例は、これらのことを如実にあらわすものである。

情報は確かに大切である。しかし、その怖さも、運用の際に慎重さを要すことも、心に銘記されなければならない。昔に比べたら、現代においてはその扱いは一層容意になった。ために、尚さら、このことは心されなければならない。これらを想い、つらつらと想い出ずるままに綴った。

現代を情報社会と捉え、それに対応する試みは、各国において進められている教育改革の動向においても読みとれる。それは、社会体制の如何にかかわらない。ちなみに、その例をアメリカ合衆国、ソビエト連邦における教育改革に窮ってみた。

アメリカにおける教育改革は、様々な政府発表公文書等によって方向づけられているが、それらのなかで基本に位置づけられるものが、“Action for Excellence”, “Nation at Risk”のタイトルのもとに出された文書である。そこでの改革の焦点の一つは高校教育に関するものであり、とりわけ「現代」社会に対応した教育の実現が主張されている。ソビエトにおける教育改革も主眼は、わが国でいう高校教育レベルに合わせられ、やはり「現代」社会に応じた教育の必要性が叫ばれている。また、ソビエトでは、この改革によって就学年齢を一年早め、それによって義務教育年限を一年延長することをめざしている。

高校教育レベルにおける改革の具体的な内容としては、米・ソ共にコンピュータ教育、情報教育の充実が唱えられていることにも、いわゆる職業学校のカリキュラムや教育方法のあり方等の改善が主張されている。

これらの改革を特徴づける要因としては、いずれも現代社会に対応した教育の実現を図るといふ動向を見ることができる。具体的には、とりわけ現代社会を産業社会と捉えるとともに、その基軸を情報社会に置くという視点が見られる。

テクノポリス構想と情報社会

現在、わが国も急速に情報社会としての特徴を備えようとしている。この動きは、われわれの身近な例としてテクノポリス構想に見ることができる。長野県下においては、現在、国による地域指定をめざした浅間テクノポリス圏域を含めて善光寺バレー圏域、諏訪テクノレイクサイド圏域、アルプスハイランド圏域、伊那テク



ノバレー圏域の四圏域において構想が進行している。

長野県下におけるテクノポリス構想は、「テクノハイランド信州」という統一構想のもとに構築されているが、その中で情報通信システムの強化がうたわれている。これは、テレトピア構想、ニューメディア構想の導入、テクノマートの形成などによって地域情報ネットワークや産業間、企業体間、あるいは対研究機関間などにおける情報ネットワークを形成しようとするものである。この他に長野県をカバーする開発構想としては第四次全国総合開発計画、いわゆるQ構造を主体とした「21世紀中部圏計画基本構想案」などがあるが、いずれも高速交通網の整備などととも情報機能の整備・充実がうたわれている。

情報ネットワーク形成の動きは全国各地に見られるが、例えば兵庫県下ではこれもやはりテクノポリス構想のもとに情報通信網の確立・整備をはかる構想が計画されている。そこでは、具体的には「西播磨テクノポリス構想」のもとに揖保郡新宮町、赤穂郡上郡町、佐用郡三日月町にまたがる西播磨丘陵に形成される新都市に高度情報通信システム（INS）を導入する計画が進められている。現在は、昭和59年3月に設立された「西播磨テクノポリスINS推進連絡協議会」を中心として準備が進められている。計画では、このINS利用システムのほかに、生活映像情報システム、生活医療情報システムなどが挙げられている。また、情報検索システム、兵庫県産業情報センター、兵庫県コンピュータプラザなどの開設が計画されている。これらと同様の動向は、山口県における「宇部フェニックステクノポリス構想」や九州全体をシリコンアイランドにすることを計画しているテクノポリス構想などにおいても見られる。

#### 情報社会と高校教育

情報社会は今後も急速に進むと考えられるが、

これまでの発展の経過としてはおよそ三つの画期が見られる。第一期は、およそ1970年代初頭から前半にかけての段階である。ここでは産業界を中心として情報洪水の時代といわれるほどに大量の情報が生まれ、量の時代であるといえる。第二期は、それ以降'70年代後半にかけて、産業界ばかりでなく日常生活の領域にまで情報があふれた時代であり、拡散の時代といえる。第三期は現在に到るまでの時期であり、社会にゆきわたった情報を産業サイドにおいても、生活サイドにおいてもその効果的な活用を求められるとともに、その質が問題とされる段階であり、活用と質の時代といえる。また、情報の双方向性が身近かに活用されるのも現代の特徴である。

従って、現代は、情報は単に与えられるだけのものではなく、その効果的な活用が求められるとともに、更にこれまで一方的に情報の受け手であった者が、同時に送り手としての機能をも併せ持つ時代であるといえる。そのために、高校教育あるいは他の学校レベルにおける情報教育であっても、それらが情報社会に果たす役割としては、単に送られた情報を処理するための技術、能力だけを育成するのではなく、同時に情報の選択や解釈、理解を通してそれらを活用できる能力を育成することが必要である。また、情報の双方向性としてのオープンラインの運用を考える時、情報を送り出す側としての通信技能という技術面とともに、情報作成能力、表現能力、コミュニケーション能力などを軸とした豊かな創造性の育成が急務とされる。すなわち、情報社会が進むほどに、また通信技術が進展するほどに、アメリカにおいて、現代においてこそ学校におけるリベラル・アーツの重要性が再認識されたように、人間性の教育が重要となる。

（助教授）



## 蔵書について

安藤 裕

一般に蔵書の多寡がその人の教養の度合いを示すように考えられ勝ちで、大抵の人の学者先生のイメージは、書物で埋った書齋で難しい顔をして、机に向っている姿ではなからうか。

ここ四半世紀の間に活字情報がたいへんな勢いで増え、私達はその大洪水の中で生活している。最近ではこの莫大な情報の中から自分に必要なものを拾い上げるのが、一苦勞になってしまった。これに目をつけた情報インデックスの商売が現われ、私達の研究分野でも注文しておけば、ここ数年の間に世界中で出された論文のリスト（不完全ではあるが）を入手できるようになった。

ところで、君達、学生諸君は短大での勉強、貴女方自身のための教養や生活の情報をどうやって手に入れているのであろうか。多分、その情報源は電波や映像によるもの以外は、皆さんの蔵書と図書館の書籍や雑誌であると思う。近頃の文学全集や若い女性向けの雑誌は、室内のインテリアや持ち歩けばファッションになるような、カラフルでしゃれたものがあるから、知的な情報源として以外の存在意義もあるはずだ。そこで、手許に置く書物、すなわち蔵書の選択に、学生の今から心がけることが必要になる。これから、貴女方の参考になると思うので、私達の蔵書について考えてみよう。

米国のB先生は私の昆虫発生学のお師匠さんと云える方で、ニューヨーク州のイサカにあるコーネル大学の名誉教授（奥様も同大学の名誉教授）で、停年後はシアトルの北の多島海（カナダのバンクーバやビクトリアのすぐ近く）に浮かぶ美しい島（ここにはワシントン州立大の臨海実験所がある）に住んでおられる。先生の自宅に泊めていただいた時に気がついたことは

この国際的に知られた碩学の蔵書が、どう見ても少なすぎることであった。当時先生は八十になられ、ボート（キャビンが付き、数人乗り、航海ができる）と水彩画かきを楽しむ日々を送っておられたのではあるが…。蔵書の少なさが不思議だったので先生にお尋ねしたところ「ヒロシ、コーネルの図書館は米国屈指で、世界中の文献の70%以上が収集されていたから、研究に必要な文献は図書館に云ってやれば、じき手に入る。だから自分で蔵書を持つ必要はないんだ」とのお返事であった。現在では私の大学でもリファレンスサービスが良くなり、世界中のどんな文献でも一カ月足らずで手に入るようになったが、B先生の話は第二次世界大戦前後のことであるから、コーネル大の図書館の充実度には、ただ、ただ驚くばかりである。

次に西ドイツのスイスに近い静かな丘陵地帯にあるチュービンゲンに話を移そう。このチュービンゲン大学は、ドイツでも古い歴史を誇る大学の一つで、小じんまりはしているが、極めて質の高い大学であり、上田女子短大のような恵まれた自然環境の中にある。この大学の動物学科のM教授（夫人も博士で、同じ分野の研究者）は古い友人であるが、彼の自宅の書齋に収められた蔵書の量と充実ぶりには、目を見張らせるものがあった。M教授は脂ののりきった現役の教授だから、悠々自適の余生を送っておられるB先生とは違うが、アメリカとドイツでは、本を持つということの基底的な考えに、大きな相異があることが判かる。イギリス、オランダ、ポーランドなどの教授達の蔵書もM教授と大同小異ではあるが、趣味や教養の書物がかなり含まれていた。私達日本人の場合は、ヨーロッパ型の蔵書観のようで、私自身も来春の

停年を前にして、研究室の膨大な図書、文献類をどうやって自宅の書庫、書齋に納めるかが大問題で、今から頭が痛い。友人の名大の教授が数年前に大学を退き、研究室の書物を自宅へ持ち帰ったところ、広くない家の中に書物の山ができ、廊下まで積み上げたので、通るのがやっとなってしまったそうだ。その本の山の中から必要な本を見付け出すのが、大仕事になってしまい、時々探すのを断念すると云う。今まで紹介してきたのは世に云う学者先生の場合なので、年若い女子学生の君達には直接は当てはまらないが、印刷された情報をいかに効率よく利用、吸収するかが二十一世紀に生きる君達の極めて大きな問題であると云える。そのためには私が最初に紹介したB先生のように、手許には充分に吟味した必要不可欠な書物のみを揃え、読むだけでよいものは図書館の書物を利用することである。これは誰もが知っていることであるが、実際には本の山をかかえ込む人達が多い。

さて、そこで図書館をいかに上手に使うかだが、その第一歩は、図書館でいかに多くの時間を過すかで決まるように思う。次に図書館のどのコーナーに、どんな本が並んでいるかを覚え込むことである。こうなれば自分自身でかなり図書館の活用ができるはずであるが、さらに、司書の人達に、必要とする方面の図書について相談し、教えを受けることである。こうして本に親しむ習慣と筋のよい読書の習慣を学生である今、きっちりと身につけることが肝要である。読書への強い欲求ができれば(一種の修練であるが)、将来、職を持ち、妻となり、母となっても、多忙な生活の中で読書の時間を生み出せるのではないと思う。

現在では地方都市はもちろんのこと、町村にも気軽に利用できる図書館があり、図書の巡回サービスなどもあるから、余程、特殊な本でなければ、望みの本を読むことが可能であろう。このようにして読書への目が開けてきたら、どう

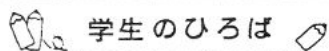
しても手許に置いて再読、三読したい本のみ買ったらよいのである。自分の本には書き込みができる、アンダーラインを引ける、頁の隅を折って印にすることもでき、気に入ったカバーをかけることもできる。蔵書印も押せる。こんなことは些細なことと思うかもしれないが、これが蔵書の蔵書たる由縁である。こうして一冊、一冊、買いためたものが、いつしか君達の蔵書になるのだが、百科辞典や辞書、図鑑などは別として、蔵書は書棚一つ位で済めば理想的なのではないかと思う(特に都会生活の場合には住居のスペースの問題があるから)。この場合も終生座右に置くものと数年で新陳代謝してよいものがあるはずだから、蔵書の量を余り殖やさずにやってゆけるのではないかと思う。

最後になってしまったが、古本を利用することをお勧めしたい。うら若い女子学生と古本屋は、イメージとしても、しっくりしないかもしれないが、古本漁りの楽しさには、格別のものがある。当り前のことだが値段が新刊本に比べ遙かに安い。新刊書店では見付からない本を探すことができる等々、古本屋は見方によっては宝の山である。私は国内でも国外でも古本屋と骨董屋は見付け次第、入ってみることにしているが、君達も恥かしがらずに古本屋へ入ってご覧なさい。きっと、病みつきになるのではないかと思う。上田にも長野県としては大きな古書店があり、明るい店舗に、新刊書店のように綺麗に古本が並んでいる。利用しない手はないと思うがどうだろう。

さて、今はやりの記憶情報であるが、これは急速に変貌する専門知識や広範囲の分野の情報を必要とする人達には測り知れない力を発揮するに違いないが、普通の生活を送る人達には印刷された情報、すなわち図書が、将来も知識源の大半を占めるはずである。

誰でも見事な美しい装丁の書物には深い愛着があるもので、君達の嫁入り道具に娘時代の蔵書が、花を添えるようになって欲しいと思う。

(本学講師・筑波大学教授)



学生のひろば

## 実習を終えて

幼児教育科2年 加藤 美保子

幼稚園や保育園の子供達は、先生といっしょにかけまわって遊んだり、歌をうたったり、絵本や紙芝居を読んでもらったりすることが大好きです。実習をして子供達と接することにより、改めてそれらを感じることができました。

何十人もの子供達といろいろな接し方をするわけですが、一言、疲れます。家に帰り実習ノートを書いた後はもうぐったりという状態。しかし朝になり目が覚めると、自分でも不思議なぐらい疲れはどこへ行ったのか、今日もがんばるぞ、という気持ちで体が動き出すのです。一人一人、その時々々の場面でおもしろい発言をしたり、ハッと驚くような行動をしたり……。そんな子供達の中にいると、楽しくて楽しくて疲れの「つ」の字もどこかへ飛んでいってしまうのだと思います。

私が今まで実習してきて、絵本や紙芝居と子供とのかかわりについて感じたことがありました。

まず、子供達は絵本や紙芝居が大好きです。好き、の度合いは違うとしても誰一人として嫌いだという子はいないと思います。「今日は絵本を読んであげるよ」「これから紙芝居をするよ」と先生が言うと子供達は大喜びです。子供達の方から紙芝居を見つけて、「先生、紙芝居やって。」と言ってくるときもあるくらいです。お部屋の中がざわざわしているときに一声かけて紙芝居を始めると、子供達の目はサッと先生の方、いいえ紙芝居の話の中に入ってくるのです。このとき、紙芝居の子供を引きつける偉大さを感じなくてははいられません。

ある保育園に、自由遊びのときは何人かの友達と遊ぶということがなく、一人でフラフラしていたり、夏のプール遊びでも他の子供達は喜

んで水遊びをしているのに一人でホールに行き、ソラッと覗いてこちらの様子を見ているK君という男の子がいました。何に対してもこういう子なのかな、と思っていたところ、ある日残留保育の実習をしていると、K君自ら絵本を持ってきて「読んで」と私に言うのです。一冊終わると二冊目を持って他の子を押しのけて、「次これ」と言ってくるのです。あのK君が……と私は嬉しくなっていました。それだけではなく、その子その子の好きなもの、入っていける遊びを先生が見つけ出しそこから他の子供達の中へ導いていく必要がある、ということにも気付くことができました。このように紙芝居や絵本が子供達を引きつける力というのはこんなにも大きいものなのか、ということを実習を通して改めて知ることができたようです。

また、同じ紙芝居や絵本でも読む側の読み方により、子供を引きつける力の差が出てくるのではないかと思います。声の出し方、めくり方、話し方、そしてどれだけ役になりきれられるかにより、子供達がただの紙芝居や絵本を見ることになるか、それともその話の中に入ってくるかができるのか、という違いが出てくるのではないのでしょうか。

子供が成長発達していくための、プラスになるような手助けをしなければならない幼稚園・保育園の先生。とても難かしくてたいへんな仕事だと改めて感じた実習でした。しかし子供の表情・行動を見ていると本当にやりがいのある仕事なのです。子供の気持ちを十分に理解してあげられる先生、そんな先生を目指している私です。



## 「共存」— 自然と共に生きる —

国文科2年 青木 富志子

私たちが住んでいるこの日本には、春・夏・秋・冬という四つの季節、つまり四季がある。私たちは、この四季の繰り返しの中で生き、年を重ねていく。

春・夏・秋・冬という季節の経過には、私たちの周りの景色の変化が伴い、又その変化によって、私たちは季節の訪れを知ることができる。その景色の変化は、“色”の変化といってもよいだろう。季節が変わるとともに、色自体が変化するのである。

例えば、「あなたは、四季から何色を連想しますか、それぞれ答えて下さい。」という問いかけに答えようとするとき、一体どんな色が頭に浮んでくるだろう。私はこの問いかけに対して春—桜並木—ピンク色、夏—青空—青色、秋—紅葉—橙色、冬—雪—白色、という様に、それぞれの季節に伴った景色を思い浮べて答えるだろう。(しかし、人それぞれに季節からイメージする色というものは違っているだろうし、それも当然であろう。)このように、私たちは、季節の変化に伴う色の変化によって、季節感を味わうことができるのである。このことは、四季が存在する日本に住んでいる私たちが、大いに誇れることではないだろうか。なぜなら、世界には、一年中暑い夏の季節しかない国やら、その反対に、一年中身体が氷りついてしまうほどの寒い季節しかない国など、日本ほど、春・夏・秋・冬といった季節があり、自然の色が変化する国は、他に余りないからである。この“色”とは、絵の具などの人工的な色ではなく、自然が生んだ、純粹で暖か味があり、しかも全く混ざり気のない“色”であり、私たちは、自然と共に、そして自然が生んだその“色”と共に生活を送っているのである。

このように、私たちの生活をよく観察すると、季節・自然・色の三つの関係が切っても切ることができないことに気づくだろうか。それらは、私たちが生きていくことにとっても、不可欠なものである。しかし、今私たちは、生活をよりよくすることばかり考え、自然破壊を簡単に手がけてしまっている。これは、私たちの生活を自身の手で破壊しようとしている、といっても過言ではない。周知の通り、人間は酸素を取り入れて二酸化炭素を出し、植物はその逆の作用をする。少々大袈裟なことを言うと、自然破壊は私たちの息を苦しめることになるのである。そして、自然が破壊されれば、季節に応じた“色”を失うことになり、その自然が生んだ、純粹で暖か味があり、混ざり気のない“色”から“季節感”を味わうことさえできなくなってしまうのである。私たち人間にとって“自然な色”がなくなってしまったなら、どんなにつまらないものになるだろうか。そうさせないためにも私たち人間は、私たち人間自身のことばかり考えるのではなく、自然と共に生きる—共存—ということを実感し、しっかりと頭に入れて、これからの生活を送っていく必要があるのではないだろうか。







## 過去における誤ち

幼児教育科1年 倉沢由美子

堅琴の美しい調べにひきこまれて、先日「ピルマの堅琴」という映画を観た。戦争の悲惨さ、戦争の残骸を見過ごす事の出来ない青年の痛々しい程にやさしい心が写し出されていた。彼は敗戦となり捕虜となる地へ向かった仲間達を追う途中、崖に川辺にゴミのように重なる多くの日本兵を発見する。仲間達は、もう、すぐそこにいた。しかし彼には、行く事が出来なかった。彼とて仲間のもとへ走り寄り、そして日本へ帰りたかっただろう。しかし、異国の地にさまよう多くの戦友の魂を見捨てる事が出来なかった。彼のその気持ちに心を打たれるとともに、戦争の痛手、悲惨さ、みじめさを痛感し、憤りを感じた。

そして、今読んでいる戦没学生による遺書、手紙による、『きけわだつみのこえ』においては、20代の夢と希望を抱え、これから自らの人生を確立していこうとする筈の彼らの、戦地における心の叫びが綴られている。彼らは、遠く離れた戦地で、愛しい人々の顔を思い浮かべ涙し、自分の可能性を確かめるまでもなく、あまりにも短い人生をどう解釈して死んでいったのだろうか。解釈も何も無いのだろうか。だとしたら、どうして潔く死んでいくことができたのだろうか。ただ、あきらめていたのだろうか。いや、後悔でいっぱいだったのかもしれない。そうして、戦争を心の中では否定しながらも、社会全体のムードに押し流され犠牲となっていた彼らの姿が、いたるところにひしひしと感じられる。私は、何度も何度も胸のつまる思いがし、こみあげる涙を止めることができなかった。

ふつうの状態であるならば、誰だって命は大切である。むやみに命を捨てるようなことはし

ない。それなのに戦争は、自分の為でなく、誰の為でなく、生きようとする人々の莫大な数の尊い命が失われる。一瞬のうちに。それは、広島・長崎における原爆投下の惨たんなる結果でも明らかである。何十年も、何百年もかけて築きあげたものも、一瞬のうちに消え去る。残されるのは、みじめな苦痛だけである。

今私達は、核の恐怖と対面している。原水爆による血みどろの地獄を、誰だって知っている筈である。それなのに、今なお核は拡張するばかりである。今度戦争が起こったら、きっと私達はこの世に存在しないだろう。生き残ったとしても、それは死ぬことより辛い状態であろう。しかし、私達には核拡張を止める程の力もない。だがせめて、平和な日々を過ごしている私達も、過去における誤ちが巻き起こした悲劇を心に刻みこんで、社会がどう変動しつつあり、その中で自分はどんな立場におかれているのか感じとっていきたいものである。

階段を昇りつめしところ

暗がりを

一人占めする裸像の少女 (1986)

— 福沢武 — 小歌集『水無月』より —

嬉戯すると握る妻の手

あたたけど

土に荒れをりこそばゆきまで(1951)

— 福沢武 — 歌集『流燈』— 小夜 — より —



国文科1年 河野 かおり

この間、妹のなおみから電話がかかってきた。妹は、長野の某女子高校の2年生なのだが、家からの通学が困難な為、一人暮らしをしている。だからその点では、私より一年程先輩の筈なのに、やはり時々淋しくなるらしく、そんな時にはきまって電話がかかってくる。

「もしもし、おねえちゃん元気?」と、いつものように始まったので、また、歌手のどれその新曲はいいとか。きれいな硝子の小瓶を買ったとか、そんな類の話だろうと思って聞いていると、どうも今日は違うようである。なんでも明日までに進路調査の紙を、学校に提出しなければならないとかで、相談にのってほしいということだった。

私はまず、妹の意見を聞いてみた。

彼女が言うには「自分にはこれといって才がある訳ではないし、何をやりたいのかもわからない。でも、親は進学しろというから、短大に進もうか、それとも家業関係の専門学校へ行って家を手伝おうか、とも思う。でも、どうせ女なんだから、2、3年もすれば結婚しちゃうのに、もったいないかなと考えている。」というふうだった。聞いてみると、確かに自分もそう考える時があったように思う。自分は、まだ何がしたいのか把握できていない時、友達はどうしかりと、将来自分のなりたい職業が決まっていた、その技術を習得したり免許を取る為に進学しようとしていた。だが、私が学んでみたいと思っている文学や音楽というものは、直接、職業にかかわるものではないので、それよりも早く社会に出た方がいいのかもしれないと思い悩んでいた。けれども、私の場合は随分と迷った揚句、土壇場になって、「もっと古典に近づいてみたい」とどうしても思い、好きなものを勉強しな

がら、自分が生きてゆく上で何が必要なのか、自分がやっていきたいものは何であるのかを探してもいいんじゃないかと開きなおって、国文科を志望した。だいたい、自分にとって都合のいい解釈だと思うが、今では、これからの自分のことを考えるための貴重な2年間を得ることができ、とてもよかったと思っている。特に国文科を選んだのは正解であった。様々な文学との遭遇は、人間の、血となり、肉となり、心となるように思う。直接、職業というものとは結びつかないかもしれないが、私にとっては、それより何より尊い価値があるもののように思う。

それから「どうせ女なんだから」というのは聞き捨てならない言葉だと思った。女だからといって、結婚したらそこで「自分」が終わってしまう訳ではない。作家の高樹のぶ子が、「人に期待しないで、自分に期待する人生」ということを、なにかにかいていた。そこでの意味は確か、「自分が期待するのは、夫でもなく子供でもなく、自分自身であるべきだ」ということだったが、これは既婚、未婚に関係なく言えることで、女は自分自身の中に何かを持っていないといけないということだと思う。もしその何かが見つかっていないのなら、それを見つけてから社会に出ても遅くはないのではないかとと思う。— というようなことを言って、私は妹に進学を進めてみた。妹には妹なりの考え方があるし、結局、自分の道は自分で選択するしかないのだから、しばらく様子を見ようとは思っているのだが、やはり気になるものだ。今夜あたり、たまにはこちらから電話をしてみようかと思っている。



◇◇【図書館ガイド】◇◇

## 図書館員になるには

この図書館ガイドは図書館をより効果的に利用できるように種々のことを解り易く説明するためのものです。今回は「図書館員になるには」について簡単に説明します。

### 1. 図書館員(司書)とは

最近、「司書になりたい」「司書の資格をとりたい」という声が時々聞かれる。私達図書館側から今の学生をみると、活字放れとか、テレビ世代とかいわれ、今年度に入り貸出が一冊もない人が全学生の27%もいるのに、何故、今「司書」なのかと不思議な気もします。

昭和60年度の私立短大図書館員の意識調査の中で、司書になりたいと思った動機に①本を通じて知的業務に魅力をもった—26.2%、②本が好き—23.3%、③本に囲まれて仕事がしたい—15.9%等とあり「司書」という名のひびきの中に何か知的な魅力でも感ずるのでしょうか。

ともあれ、司書になるための方法を解説することにします。

図書館で働く人(司書)が法的に専門職として位置づけられたのは戦後で、図書館法の制定(昭25)により公共図書館に司書、司書補を置くことが定められてからです。この図書館法第5条の中で司書の資格について定義づけがなされており、「司書となる資格を有するためには」として、

(1)大学もしくは高等専門学校を卒業した者で、第6条の規定による司書の講習を修了したもの。

(2)大学を卒業した者で、大学において図書館に関する科目を履習したもの。(以下略)としている。又、司書教諭という資格がありますが、これは前記の図書館法に遅れること3年(昭28)学校図書館法が制定され、司書教諭になるためには、教諭であって、司書教諭の講習を修了した者でなければならないとしています。(但し、附則2項で“第5条第1項の規定にか

かわらず、司書教諭を置かないことができる”としているため、この附則が30余年後の今日でも生きており、学校図書館の中で、司書教諭が正式に配置されているところは、甚だ少ない)

### 2. 司書になるためには

図書館には公共図書館、大学、短大、学校図書館、専門図書館といった種々の図書館があり、各々、目的・機能も、サービス対象も異なる。しかし、総じて仕事の内容はほぼ同じであり、図書館で働く人のうち専門的職員(図書の選択、整理、保管、提供、レファレンス・サービス等の専門的技術を必要とする)は有資格者でなければならない。又、採用に際し有資格が前提条件となるところが多い。そして、資格を取得する方法としては前述の(1)、(2)の方法が上げられます。

(1)文部大臣委嘱による司書講習を受講する方法 — この方法が一番手っ取り早く、短期間で取得できる方法で、毎年受講生も多い。受講資格は①大学(短大)を卒業した者。②在学中でも62単位以上を修得済の者とあり、毎年実施している大学に富士大(花巻)図書館情報大(筑波)大正大(東京)鶴見大(横浜)愛知学院大(愛知)桃山学院大(大阪)広島文教女子大(広島)別府大(別府)があります。

(2)大学や短大で履習する方法 — これは、図書館学専門の学部、学科、又は図書館学講座、司書課程を開設しているところへ入学しなければならない。(短大在生には3年編入の道がある)

(3)文部大臣認可の大学で通信教育で履習する方法もあります。

以上資格を取るための方法はいくつかあるので、希望する人は、それぞれの大学へ問合せ、資料を取りよせてみて検討して下さい。  
(尚、本学でも司書課程開講予定で申請中です)

### 3. 就職について

さて資格を取ったならば、図書館に勤めたいと誰もが願うでしょう。しかし、図書館法で配置を定めてあっても制度的にあまり確立されていないのが現状です。公共図書館ですら全職員数の中で司書有資格者の割合は51%(昭和60年)である。司書有資格者が毎年1万人近く生れているのに、他方就職の方では数%位で、何十倍もの競争率になることがあり、需要と供給のアンバランスが生じているのです。

しかしながら近年は各地に市民の要求で図書館が新設されたりして、専門職員の採用、増員などもみられたり、又、図書館に限らず、新聞社、出版社、大手企業、研究所等の資料室等でも司書を採用するところがあります。

希望者はあらゆるチャンスと情報をキャッチすることが大切であるといえます。

### 4. 求められる資質と、これからの司書

前述の短大図書館員の意識調査の中で、司書に求められる性格や資質の項をみると、

①親切さ、まじめさ、やさしさ—49.9%

②我慢強さ、持続性—24.6% という結果が出ていて、外からみていた知的な感じに比べ中で働いてみて我慢強さや根気良さが必要だという結果が出ている。司書の仕事はカウンターを除き相手が「もの言わぬ物体」であるが故に、やりがい、生きがいは自己満足でしかない。地味で決して表には目につかない仕事です。

次に同調査から、現場の司書として必要性を感じている知識、これまでに学んでおけばよか

ったと思うものとして、

①語学力 — 47.1%

②コンピューター知識 — 40.2%

③図書に関する知識 — 36.3%

等という結果が上っており、この結果は短大図書館という条件下であるばかりでなく全体にいえることではないかと思われます。

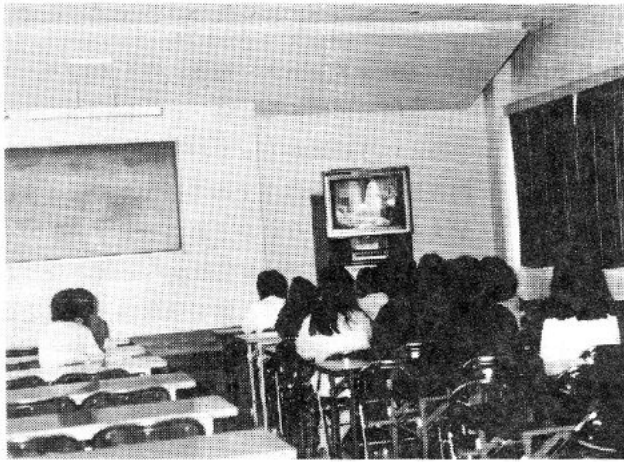
今、日本は高度情報化社会へと進みつつあり、その中で私達司書が、常日頃痛感することは、情報源である図書館に今コンピューター化の波がおし寄せてきている現実と、それにより今までの専門知識が根底から変るのではないかという懸念である。極端なことをいえば、司書資格など無くても、コンピューターが操作できれば図書館員としては勤まるのです。今、中堅司書達の多くは、この問題に正面からぶつかって悩んでいます。

「図書館雑誌」の求人覧を毎月みても、司書有資格の条件はもちろん、英文タイプ、ワープロ、パソコン可能な人等と出ているのをみてもそれがうかがえる。数年前にはみられなかった傾向です。又、図書館中級試験の出題例の中にもコンピューター関連問題が出題されるようになってきています。

司書になるためには比較的簡単な方法もあり、誰にでもなれそうな一面もありますが、前述したように、これからの司書には図書館学の知識ばかりでなく、ニューメディアを扱えるプロの司書の要求度が高く、又必要とされていくことでしょう。そのために養成側や図書館学教育も抜本的改革が必要とされてきています。

図書館界をとりまく状況の大きな変化に即応しうる図書館員(司書)が要望されつつあるのです。ぜひ司書になりたいという人は、一つ挑戦してみたいはいかがですか。(長張)

参考『図書館員になるには』菅原春雄(私立短大図書館協議会)  
『図書館年鑑1986』(日本図書館協会)  
『私立短大図書館員の専門職性(私立短大協会)に関する意識調査』  
『図書館六法』(全国学校図書館協議会)



てみたい」etc, 皆さんの声を聞かせて下さいネ! お待ちしています。

## ◇◇ 図書館 ニュース ◇◇

### Libray infomation

ご存知ですか? おーきなテレビ!

— 図書館主催・ビデオ観賞より —

去る11月20日21番教室において大型テレビ(ビデオ専用)による「愛と追憶の日々」のビデオ観賞会が行なわれました。(左写真) 図書館ではこれからも、学生の皆さんの希望をとり入れ、このような機会を多くもちたいと考えています。「あの映画が見たい」「こんなステージを大きなテレビで見

としょかんで、こんなこともしています! — 視聴覚資料貸出について —

「視聴覚資料って?」カセット・ビデオ・CD・LD・スライド等のことなんです。図書館では今年度よりこれらの充実をはかっていきたいと思ひます。皆さんへの貸出もしていますので、大いに利用して下さい。

## 《 寄贈 図書 御礼 》

—— 西尾光一・菊池志げ子両先生より図書寄贈 ——

西尾先生より、「国訳漢文大成」(国民文庫刊行会)他、菊池先生より「児童保健」(光生館)他多数の図書を、御寄贈いただきました。紙上をもって、厚く御礼申し上げます。

## 編 集 後 記

陽光を浴び萬開の花壇の間を通り、新装成つた本学へ入学した新入生も、今は立派に成長してすっかり短大生らしく切り切っている。

国文科増設以来三年余、その面目を一新した設備充実におくれじと、大学ではカリキュラム・コースの充実から、司書・司書教諭養成課程新設など、教育内容面の充実が予定されている。

ますます充実した学園生活が見られよう。

図書館の利用面にも精が出て来ているのは喜ばしい。この時図書館便り第13号が、諸先生の玉稿と学生諸姉の稿を得て成、皆様にお送りできるのは嬉しい事である。ときに世界の知識の宝庫を活用研究し、そしてまた悠然と館内を巡り図書欲を楽しむ、好適なこの頃である。(清水)

上田女子短期大学 図書館だより 第13号 1986.12.15発行

編 集 上田女子短期大学図書委員会

発 行 上田女子短期大学附属図書館

長野県上田市下之郷 620  
(TEL 0268-38-2352)